

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	はなという		
○保護者評価実施期間	令和7年1月9日		～ 令和7年2月8日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	33	(回答者数) 20
○従業者評価実施期間	令和7年1月9日		～ 令和7年2月8日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数) 11
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年3月15日		

## ○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	重度の児童の受け入れを多く行っている。そのため強度行動障害支援者研修を修了した職員も多い。	重度の障害を持つ児童の活動スペースにおいては、外的刺激が強くないように、室内に物はほとんどおいていない。また、感覚欲求を求める児童も多いため、大型のブランコ等で室内でも体を動かせるように配慮している。軽度の児童に対しては階を分けて支援をしており特性に応じた対応ができるようにしている。	重度の児童の支援を充実させるために、強度行動障害支援者フォローアップ研修にも派遣し、人材の教育ができるように努めている。
2			
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	放課後児童クラブや児童館との交流や、障害のない子どもと活動する機会を設けることが課題である。	地元小学校、中学校の職場体験などを通じ、障害のない児童と触れ合う場を設けているが、遊びや活動を通して行うイベント的な催しを行う際には児童クラブ等に出向くためのリスク管理が伴う、児童クラブ側に出向いてもらうには、交通手段の確保等を行う上で煩雑な調整が必要になる。	地元小学校、中学校の職場体験などを通じ、障害のない児童と触れ合う場を設けているが夏季休業中などに回数を増やしてもらったり、重度の障害を持つ児童以外を児童クラブ等へ訪問するなど工夫していきたい。
2	保護者から提供された情報を共通理解し、支援を行っています。事業所職員が自らアセスメントツールを使い、それを分析して支援に生かすなどは現在できていないため、今後使用していくことができるよう努めていきます	標準化された検査バッテリーも多くあるため、当事業所の児童に對しどの検査バッテリーが適切であるか検討を行う必要がある。	標準化されたものではなくても、JSI-R等や円城寺式などスクリーニング検査はあるため、児童の発達傾向を確認できる検査は実施していく
3			